

令和5年11月17日 行政経営改革推進本部会議

開催日時 令和5年11月17日(金) 午前10時25分から午前10時40分まで

開催場所 庁議室

出席者 辻川副市長、山本副市長、教育長、総合政策部長、総合政策部理事(草津未来研究所担当)、総合政策部理事(経営・DX戦略担当)、危機管理監、総務部長兼法令遵守監、まちづくり協働部長、環境経済部総括副部長(環境経済部長代理)、健康福祉部長、子ども未来部長、都市計画部長、建設部国県事業担当副部長(技監代理)、建設部総括副部長(建設部長代理)、建設部理事(プール整備・草津川跡地整備担当)、建設部理事(住宅担当)、上下水道部長、教育委員会事務局総括副部長(教育部長代理)、教育部理事(学校教育担当)、議会事務局次長(議会事務局長代理)

欠席者 なし

議事概要 下記のとおり

1 重要報告事項

生成AIの活用に係る実証実験結果について

【資料1～2】

【経営戦略課より資料に基づき説明】

- ・草津市行政経営改革プランでは、「行政運営の効率化」を掲げ、先端技術の活用を推進している。(前回(6月29日)行政経営改革推進本部会議で報告した)生成AIの活用に係る実証実験を行ったので、結果を報告するもの。
- ・実証実験については、令和5年7月18日から8月31日までの間、21所属、45名の市職員で実施した。
- ・利用したツールは、「LoGoAIアシスタント」というもので、ビジネスチャット上で、ChatGPT(GPT-4)が利用できるシステム。入力内容はAIの学習に利用されない。
ChatGPTをはじめとする生成AIについては、個人情報の漏えいの危険性や、誤った情報の混入等が課題とされているところであり、(5月31日開催の)草津市情報化推進委員会において、総合政策部理事から業務情報を入力しないよう報告があったところである。一方で、業務効率化等を目的として、国や一部の地方自治体において活用を検討されており、情報収集を行っていたところ、一定のセキュリティが担保された(入力内容がAIの学習に利用されない)環境下でChatGPTが利用できるシステムが事業者から無償で提供されたものである。
- ・実証実験の結果として、対象者へのアンケート調査や聞き取りを行った結果、およそ8割の職員が定期的に利用していたことや、業務の効率が向上したと回答したことなど、活用の有効性を確認できた。また、前向きに活用する意向を確認できた。
- ・一方で、利用の難しさとして、周知はしていたものの、検索の代替として利用しているといったことや、回答精度が低く、業務の効率が向上しなかったケースも見られた。この点については、質問の仕方等により改善の可能性があると考えている。
- ・今後、11月定例会でシステムの導入・運用に係る補正予算案を議会に提出し、議決をいただいた後、活用に係るガイドラインの策定を進め、令和6年2月から全庁的に利用できるよう取組を進めていきたいと考えている。

【主な質疑・意見】

- ・生成AIの活用に当たっては、様々なリスクが想定される。それらに留意した上で、ガイドラインの策定、適切なシステムの選定・運用をお願いしたい。
- ・実証実験では、どのようなリスク管理を行っていたのか。
⇒入力内容がAIの学習に利用されず、個人情報の入力制限や利用履歴の管理ができるシステムを選定し、実証実験を行った。
- ・入力内容や生成物は、法令に違反したり、他者の権利を侵害※したりする可能性がある。それらのチェック体制を構築することが重要であると考えているが、どのように対応していくのか。
※例えば、配布物に掲載する画像等をAIが作成した場合、著作権を侵害しているのではないかといったことが懸念される。
⇒(挨拶文の作成等を利用の対象として想定しているが) 遵守すべき事項を示したガイドラインの策定や、適切なシステムの導入により対応していく。

2 その他

【総合政策部理事(経営・DX戦略担当)から】

今回の10月定例会において、「おくやみコーナー」の設置について一般質問があった。

「おくやみコーナー」とは、死亡手続を行うための専用の窓口を設け、亡くなった方や遺族の状況に応じて必要な手続を抽出し、申請書作成の補助、受付、関係する所属への案内等を行う、ワンストップサービスを提供する場であり、御遺族の負担軽減に取り組むため、早期に設置するよう検討を進めていきたいと答弁したところである。

今後、関係課と調整を図りたいと考えているため、協力をお願いしたい。

概要作成担当	草津市 総合政策部 経営戦略課 行政経営係
電話	077-561-6544
メール	keiei@city.kusatsu.lg.jp